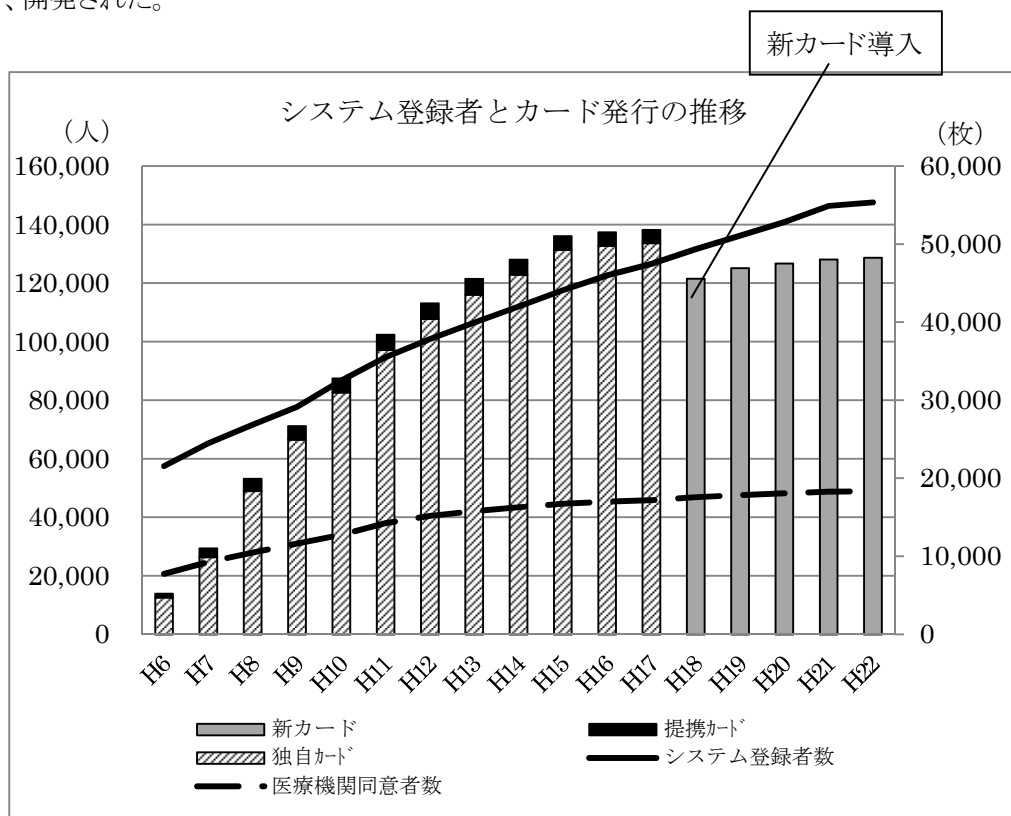


② カインドカード発行枚数

カインドカード(ICカード)については、同意者のうち希望者にのみ発行している。システム構築当初、全住民への発行や各医療機関単位の全患者への発行も検討されたが、年数回の通院しかない住民にも発行すると“使われない(活用すべきデータが無い)”カードになるため、慢性疾患罹患患者を中心に発行している。

これまで、医療機関に何らかの疾病治療のために通院している方以外の比較的健康的な方にも所持していただき健康づくりに役立てようと、医療機関で同意する以外に保健センターでの健診受診時における発行申し込み機会の設定や、当地域内の事業所に勤務される方で保健センターにて事業所健診を受診される方々へのキャッシュカード機能付きカインドカードの発行を地域内13金融機関の協力を得て実施(平成16年度中止)してきた経過がある。

開発当初(平成元年)から完成年度(平成6年)までの間、同様のシステムが構築導入された他地域とは違い、カインドカードはあくまで記録媒体であり、単独ではシステムになりえないことを前提に、検査健診オンラインシステムを相互補完する役割と個人認証のID機能に中心を置き、開発された。



平成18年度以前のS型ICカードから新規格のカインドカードへ切り替えられたことにより、独自・提携の区別がなくなった。また、新カインドカードへの切り替えにあたり、住民基本台帳とのリンクがないため、死亡者や異動転出者の把握が難しく、不明分が生じたため、カインドカード発行枚数全体では減少となっているが、平成18年度以降も、システム登録者は毎年4,000～5,000人、カインドカード発行数は500枚前後ずつ増加している。

カインドカードの発行数を評価の指標項目として考えられるが、前述のとおり、本システムにおけるカインドカードはあくまで記録媒体であり、検査健診オンラインシステムを相互補完する役割を持つものであることから、必ずしもカインドカードの発行数がシステム利用の実態を示しているものではないと考えられる。

表.システム登録者とカインドカード発行枚数推移(平成22年6月30日現在)

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14
システム登録者数	57,483	65,277	71,634	77,710	86,711	94,723	100,873	106,508	111,977
医療機関同意者数	20,663	24,682	27,904	31,009	33,986	37,994	40,423	42,062	43,399
独自カード*	4,727	9,903	18,364	24,959	30,994	36,467	40,437	43,538	46,103
提携カード*	503	1,113	1,583	1,733	1,809	1,933	1,991	2,019	1,924
新カード	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カード発行数	5,230	11,016	19,947	26,692	32,803	38,400	42,428	45,557	48,027

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
システム登録者数	117,537	122,666	126,602	131,631	136,229	140,883	146,373	147,563
医療機関同意者数	44,599	45,328	45,805	46,836	47,555	48,163	48,680	48,919
独自カード*	49,269	49,816	50,128	-	-	-	-	-
提携カード*	1,764	1,716	1,702	-	-	-	-	-
新カード	-	-	-	45,580	46,933	47,535	48,044	48,264
カード発行数	51,033	51,532	51,830	45,580	46,933	47,535	48,044	48,264

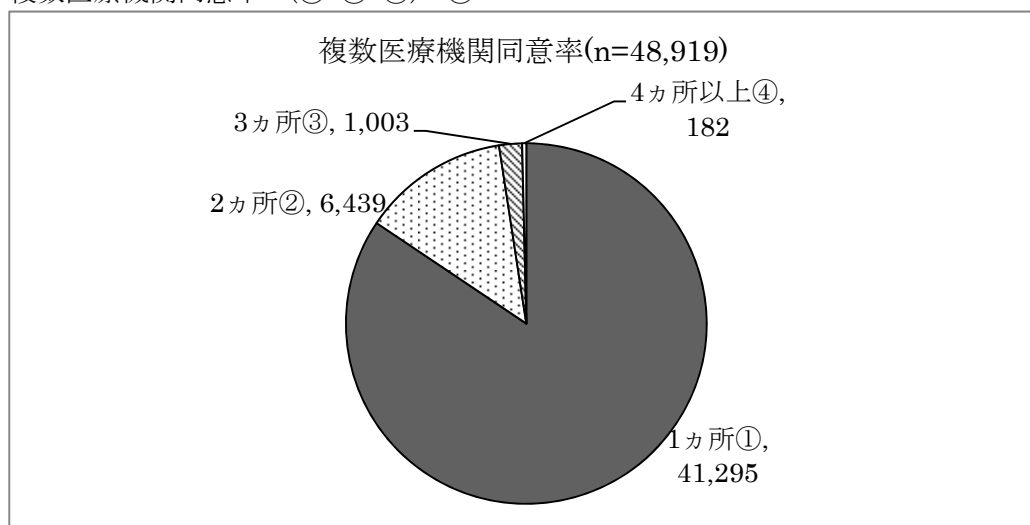
*カード発行数は同意者のうち、カインドカードの発行を希望した人に対する発行枚数を掲載。

③ 複数医療機関同意率(連携率)

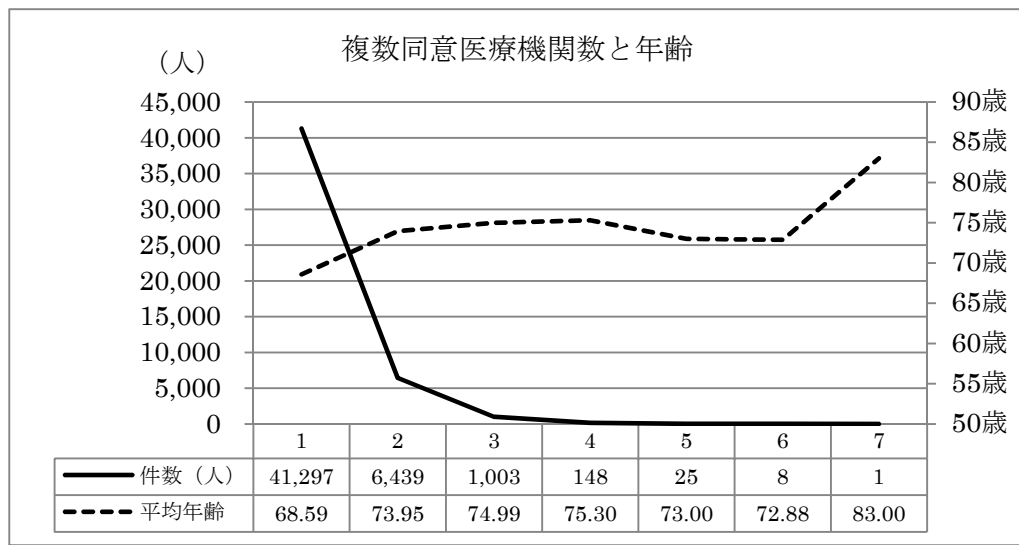
同意先としては1カ所が最も多く、全同意者の約85%を占めており、次いで2カ所、3カ所の順であり、最多同意先数は7カ所である。

複数医療機関同意数	件数(人)	割合(%)
1カ所①	41,295	84.4%
2カ所②	6,439	13.2%
3カ所③	1,003	2.1%
4カ所以上④	182	0.4%
合計⑤	48,919	
複数医療機関同意率		15.6%

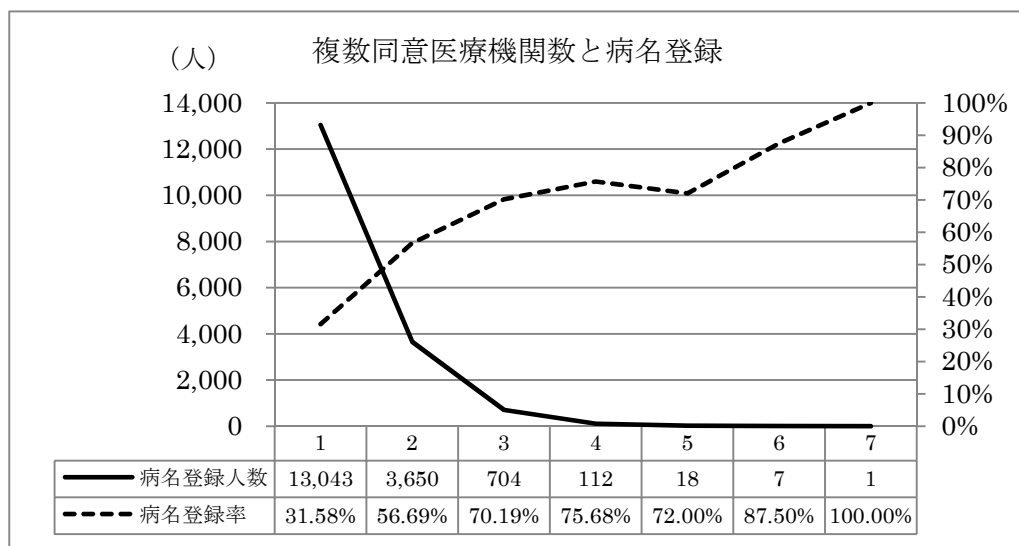
複数医療機関同意率=(②+③+④)÷⑤



年齢(平均年齢)が高くなるほど、同意医療機関数が増えている。



システムにおける病名の登録状況については、同意医療機関数の多い同意者ほど病名が登録されている割合が高い。



複数医療機関に同意している場合、内科(診)→内科(診)の数が多い。

これは、転医時やかかりつけ医以外で受診する際、以前にかかっていた医療機関での検査結果を参照してもらうためと考えられる。

それ以外では、内科→外科、内科→眼科の複数同意の割合が高い。